



いろ くる ひと からだ で くる
色の黒い人は、体から出る「あか」も黒いの

「あか」は、**皮ふのいちばん表面にある表皮の細胞**

人間の体は、小さな小さな細胞というものの集まりで、その数は、全部で60兆もあるといわれています。筋肉も骨も内臓も、みんな細胞が集まってできているのです。

もちろん、皮ふも細胞でできており、外側から順に、表皮、真皮、皮下組織に分かれています。そして、表皮の下の、真皮とふれ合う部分には、メラニンという黒いつぶをつくる細胞があり、日光にあたると、メラニンが増えて皮ふが黒くなります。色の黒い人は、このメラニンが、皮ふの表皮と真皮の間に、多くあるのです。

あかは、皮ふのいちばん表面にある表皮の細胞が、少しずつはがれ落ちたものです。ですからここにはメラニンがなく、したがって、「あか」も黒くはないのです。

皮ふはいつも同じ厚さを保っている

「あか」というのは、はがれ落ちる細胞と、ごみ・ばい菌・汗などがいっしょになったものです。あかが取れることによって、皮ふについているごみやばい菌も取れて、皮ふの表面はきれいになります。つまり、あかは、皮ふをきれいにする大切なはたらきをしています。そして、皮ふのいちばん深いところでは、新しい細胞がどんどんできて、次々と皮ふをつけ加えており、皮ふの表面では、古くなって死んだ細胞が、「あか」となってはがれ落ちるため、皮ふはいつも同じ厚さを保っていられます。（監修・保志 宏）

